2019.2.16 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

# 隠れた名曲・佳曲を集めて 第9回

## プログラム

今日は好評の「隠れた名曲・佳曲を集めて」の特集、その第9回目をお送りします。
**メンデルスゾーン**の「厳格な変奏曲」は1841年に作曲され、重厚な主題と17の変奏から成っています。メンデルスゾーンの最も優れたピアノ作品であると同時にロマン派を代表する変奏曲のひとつです。アルゼンチンの作曲家**ヒナステラ**の「アルゼンチン舞曲集」は1937年、国立音楽院の学生であった21歳の時に作曲された作品ですが、今日では最も人気があり、演奏される機会も多い作曲者の代表的ピアノ曲となっています。**フランク**の「交響的変奏曲」は、フランクが得意とする循環形式（同じ主題材料を全楽章あるいは数楽章に用いて、性格的統一をはかる手法）を巧みに使い、全体がひとつの楽章のようにまとめられた協奏交響曲のような変奏曲で、充実した内容を持つ傑作です。**リムスキー=コルサコフ**の「ロシアの復活祭」は1888年夏に作曲された復活祭を描いた標題音楽で、主題はロシア正教の聖歌集から用いられています。受難土曜日の夕方の荘厳と神秘から、復活日曜日の朝の奔放な祝祭への移り変わりを、熟達な管弦楽法で描いた名曲です。**コープランド**のクラリネット協奏曲はジャズ・クラリネットの名手、ベニー・グッドマンの委嘱で1947年から1949年にかけて作曲されました。牧歌的で叙情性に溢れた美しい第1楽章にカデンツァが続き、軽快で生き生きとした第2楽章はジャズの要素がふんだんに盛り込まれた、このジャンルの名作のひとつです。ロシアの作曲家**グラズノフ**は生涯8曲の交響曲を残していますが、演奏される機会に恵まれているとは言えません。なかでは1895年に作曲された第5番が最も有名で、明るく明快な響きと叙情性はロシア的というよりはロマン派的要素が強く表れた、円熟期の名曲です。ごゆっくりお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊

### フェリックス・メンデルスゾーン（1809～1847）：
### 厳格な変奏曲ニ短調op.54

アンドラーシュ・シフ（ピアノ）
（2014.3.19 東京オペラシティ・コンサートホールでのLive）

### アルベルト・ヒナステラ（1916～1983）：
### アルゼンチン舞曲集op.2～第2曲「優雅な乙女の踊り」

マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）
（1979.4.22 アムステルダム・コンセルトヘボウでのLive）

### セザール・フランク（1822～1890）：
### 交響的変奏曲嬰ヘ短調（ピアノと管弦楽のための）

ホルヘ・ボレット（ピアノ）
フェルディナント・ライトナー指揮北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団
（1982.3.19　ハノーファー、フンクハウスでのLive）

### ニコライ・リムスキー=コルサコフ（1844～1908）：
### 序曲「ロシアの復活祭」op.36

トゥガン・ソヒエフ指揮スウェーデン放送交響楽団
（2003.12.5 ストックホルム、ベルワルドホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

### アーロン・コープランド（1900～1990）：
### クラリネット協奏曲ハ長調

ラースロー・ホルヴァート（クラリネット）
アーロン・コープランド指揮ハンガリー国立交響楽団
（1973.9.23　リスト音楽院大ホールでのLive）

### アレクサンドル・グラズノフ（1865～1936）：
### 交響曲第５番変ロ長調op.55 ～ 全曲

ワルター・ウェラー指揮シュトゥットガルト放送交響楽団
（1983.1.21 シュトゥットガルト、ベートーヴェンホールでのLive）

★ホームページアドレス　http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/